

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 812 号	氏名	吉村 俊祐
学位審査委員	主 査	福岡順也	
	副 査	高橋晴雄	
	副 査	前村浩二	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、中枢神経に腺外合併症を呈するシェーグレン症候群(SJS)においてアクアポリン(AQP)が共に発現していることに注目し、AQP 発現と疾患の病態発生との関連性を検討したもので、目的は妥当と考えた。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>視神経脊髄炎関連疾患(NMO)で SJS を合併した生検症例、SJS 症例およびコントロール群の 3 群において AQP4, AQP5 の発現を免疫染色的に検討し、また AQP の変化がサイトカイン依存性であるかを評価するために初代培養唾液腺上皮細胞を用い、TNF-α 及び IL-10 による刺激を加えた検討を行っている。研究手法の進め方は妥当と評価した。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法の結果、AQP4 は唾液腺内に発現しないことを発見し、また SJS および NMO 合併 SJS に共通して、AQP5 が唾液腺上皮内に異常な局在を示すことを発見した。更に、上皮の AQP5 の発現がサイトカインに依存するものではないことを明らかにした。SJS および NMO-SJS が共通して AQP5 の上皮における局在異常を合併することを明らかにしたことは、今後の SJS における病態解明において、大きな影響を与える結果と期待される。また、これらの結果から導かれた考察も妥当なものであると評価した。</p>			
<p>以上のように本論文はシェーグレン症候群の研究において貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			